

東北学院大学 チャペル ニュース

「新入生歓迎号」

第96号 2006年4月
東北学院大学 宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

● 巻頭言 ●

大学礼拝



宗教部長

佐々木 哲夫

大学礼拝は、聖書が神の言

葉として公に語られる時であり、また、東北学院大学が神の前で自らの存在の本質的意義を再確認する時です。「礼拝から出発し礼拝に帰る」が東北学院の基本姿勢です。それゆえ、余った時間ではなく一番良い時間を礼拝に捧げています。大学礼拝の概要についてご紹介いたします。

チャイムが一〇時を告げると礼拝堂からオルガン前奏の音が響いてきます。礼拝堂の前列から順に着席して下さい。毎日行われている礼拝の始まりです。心を静め礼拝司会者の言葉に耳を傾けて下さい。

●
〈讚美歌〉礼拝参加者（会衆）が讚美歌を歌うようになった



土樋キャンパス礼拝堂

●
のは、ルターの宗教改革からです。それ以前は聖職者だけの特権でした。讚美歌の歌詞を味わいながら声高らかに歌つ

て下さい。

●
〈聖書〉聖書の構成は、前半四分の三が旧約聖書、後半四分の一が新約聖書です。それぞれに頁数が付されておりますので、例えば、五〇頁の場合、旧約聖書か新約聖書かを指定しなければなりません。旧約聖書の原語はヘブル語、新約聖書はギリシャ語です。

●
諸国の言葉に訳され、礼拝に使用されるようになったのは、宗教改革以降のことです。日本語訳の聖書の普及は最近のことです。

●
〈説教〉神の言葉がこの世に対して公に宣言される時です。

●
話し手の経験や思想を披露する講演とは根本的に違います。聖書の言葉は、歩むべき道を照らしだすともしびとして私

●
たちに臨みます。特に重要なことは、イエス・キリストの十字架に表わされた神の愛や救い（福音）が告知されることです。

●
〈祈り〉礼拝司会者は、説教の言葉だけでなく、神の恵みや平安や祝福を執り成します。祈りの最後の「アーメン」は、英語やギリシャ語やヘブル語に共通して見いだされる言葉で「真実で確かです」の意味です。祈りを共有するしるしとして、会衆の皆さんも最後に「アーメン」と唱和して下さい。

●
〈頌栄〉神の栄光をたたえる短い讚美歌です。頌栄の後、黙祷をささげます。オルガン後奏は「派遣」の意を込めて皆さんの退場時に奏します。一〇時二五分が礼拝終了の目安です。

キリスト教大学の 特 質



学院長 倉 松 功

なぜ大学で礼拝がなされるのか、キリスト教があるのか、その問いに対して第一にいわねばならないのは、大学の歴史と礼拝、キリスト教とは不可分の関係であったということです。大学は十二世紀の終わりに始まり、八百年以上の歴史を持つものです。その大学の歴史の本流に立っている

大学は、礼拝を行い、キリスト教を行ってきています。なぜこれらの大学では礼拝を守ってきたのでしょうか。それは、これら欧米の代表的大学が目指している目的、建学の精神と密接に関係してお

ります。しかし、大学の歴史の本流にある大学は、カルチャー（人間形成・教養）をそのように考えただけではありませんでした。実は、カルチャーという言葉そのものが、たんに、サイエンスによる人間形成という意味ではないのです。culture の語源 *cultus*、これは礼拝という意味です。カルチャーを重んじる大学は大学で礼拝をしてきたのです。大学の歴史の本流にある大学としての象徴が礼拝であったということができます。学問と礼拝、あるいはキリスト教による（カルチャー）、人間

形成、教養を求めている大学は日本では多くありません。しかし、著名な欧米の大学は礼拝を重んじています。世界の大学・文化の本流で、はばたくことを志すものにとって



多賀城キャンパス礼拝堂

礼拝は欠くことができないのです。それでは大学では、どんな礼拝がなされるべきでしょう。「なすべき礼拝」（ローマの信徒への手紙十二章一節）と性的・非理性的な礼拝であってはならないでしょう。しかし、理性的でありつつ、宗教的礼拝として理性を超えるようなものを持っていなければなりません。その礼拝において、何がなされるのでしょうか。聖書が続けて記しているように、「何が神のみ心で善いこと、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになる」ことが行われるのです。善悪の価値、未知なこと、まだ知るべきこと、非経験なこと、超越者なる神、キリストに出会う礼拝を体験したいものと思えます。またそのように私を新しく変えてくれるような力のある言葉が聖書であります。他方そのような聖書とそれによって培われたキリスト教の歴史と文化について学ぶのがキリスト教学なのです。



東北学院は、一八八六年（明治十九年）に創立されてから、今年で一二〇周年を迎えます。東北学院はキリスト

教を土台として創立された学校です。私たち東北学院に連なる者は、創立者の押川方義先生、ホーイ先生とシュネーダー先生の三人を校祖としてこれらの先生方の努力によって確立されてきた建学の精神を大切にしたいと思います。いうまでもなく、その骨子は、キリスト教の教えを中心として「徳育、人格教育を施し、世界文化の創造と人類の福祉に寄与する」ということでもあります（東北学院寄付行為第三条、学則第一条参照）。

学生諸君、とくに新入生の学生諸君に次のことをお願いしたいと思います。すなわち、ぜひ在学中に「人生における主体性（Identity）の確立」をめざしていただきたいという事です。言葉を変えてい

えば、我々の行動の基本、物事を考えるときの基準（いわば心の座標軸）をしっかりとしたものにして欲しいということです。大学生活においては、将来の仕事のために役立つ知識を吸収することも大事ですし、新しい知恵を吸収するための方策についての知識を吸収することも重要です。是非、東北学院大学に在学している間に、人生をたくましく、自信を持って生きてゆくことのできる知恵と知識を吸収していただきたいと念じますし、また、それは十分に可能であると思います。我々教職員は自信をもってそれらを皆さんに提供することができると考えております。しかし、これから大きく変化してゆくと予想される社会において生き抜

き、かつ、社会に貢献していくためにもっと重要なことは、新しいこと、経験していないことに出会ったときに自らが判断するための基準を持つことです。二〇世紀の後半の、いわゆる「戦後」には、欧米を模範として「追いつけ・追い越せ」というような手法をとることができました。しかし、今日の二一世紀の日本、あるいは世界の状況では、そのようなことは通用しません。これまでに未経験の事態に遭遇したときに自分で考え、自分で判断することが重要になってきます。そのためには、判断する時の「基準」が重要になってきます。本学では、その基準を確立するための参考となる基本を「聖書の教え」においています。

すなわち、その主体性の確立において、本学で基本としている聖書の示す教えに耳を傾けることの重要性を指摘したいと思います。このことをもっとも端的に表している聖書の言葉は、旧約聖書の箴言第一章七節および九章一〇節に全く同じく記載されている、「主を畏れることは知恵の初め」であります。これは、本学、土樋キャンパスのシュネーダー記念図書館正面の壁に大きく掲げられておりますので、ご覧いただきたいと思います。日々の大学生活において、毎朝の礼拝に出席して司会者の言葉に耳を傾け、そして、自分を見つめることをとおして、今後の皆さんの心の座標軸を確立されることを期待します。

「学生のためのオルガン公開講座」

開催のお知らせ

大学オルガニスト
今井奈緒子

この講座は、今年度から新たに開催されるものです。礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので複数年継続して受講することも可能ですし、受講場所は、所属のキャンパスに関係

なく選択できます。

◇受講資格

楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得のある方

◇対象

本学に在籍する方（所属学部、学部生・大学院生を問わず）

◇内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ（個人またはグループレッスン形式）

◇場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◇受講料

年間一五〇〇〇円

◇期間

通年（月二回、計十回程度）

◇募集人数

各キャンパスとも若干名

◇講師

小野なおみ（土樋担当、本学礼拝オルガニスト）、菅原淑子（多賀城担当、本学礼拝オルガニスト）、今井奈緒子（泉担当、教養学部教授、大学オルガニスト）

◇説明会開催日

受講希望の方は所属キャンパスに係わらず全員、四月二〇日（木）一四時三〇分に、泉キャンパス音楽研究室（礼拝堂一階。シラバス参照）前へお集まりください。

講師を交えてレッスンの相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に音楽研究室までご連絡ください（〇二一・三七五・一一八五）。

なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます。がありますのでご了承願います。



泉キャンパス礼拝堂オルガン

スプリング・カレッジ について

大学宗教主任
野村 信

毎年、四月の第三土曜日は、キリスト者推薦の学生たちを対象に、「スプリング・カレッジ」が行われます。

「スプリング・カレッジ」という言葉を初めて耳にした人は、春に行われる大学の講義かと思われるかもしれませんが、宗教部主催の半日のオリエンテーションです。今年が第十一回目になります。

この会は、最初に推薦学生たちと宗教部の教職員によっ

て礼拝を行い、続いて、本学の建学の精神であるキリスト教について理解を深め、また校内の宗教活動の紹介などをします。

会の途中で、参加者がそれぞれ自己紹介をし、短く親睦をする時もあります。互いに打ち解けて、親しい仲間を見つかる機会にもなります。

この行事への参加は、一般学生を対象としていませんが、夏休み開始時期に、二泊三日で行われる「サマー・カレッジ」は、誰でも参加することができます。

「サマー・カレッジ」は、半日で行う「スプリング・カレッジ」を拡大したような時間で、聖書の学びを深め、親睦をはかる行事です。

こちらは、一般学生の参加を歓迎します。是非、みんなで充実した学生生活とキリスト教活動を盛んにしていきたいと思えます。

新入生諸君、入学おめでとう！東北学院大学は君達を心から歓迎します。勉学に、スポーツに、その他の様々な活動に、学内に豊富にある施設やサークルを存分に利用して、充実したキャンパスライフを楽しんで下さい。それから三年生に進級される皆さんは、今までの泉キャンパスでの生活から

心機一転、新たな気持ちで土樋キャンパスの生活に臨んで下さい。皆さんに望みたいのは、自分からは、積極的に参加する姿勢です。受身の態度は、生活が乱れる一因にも



土樋キャンパス
大学 宗教主任 博士
北

なります。もう一つ、折角キリスト教を建学の理念とする大学に入ったのですから、キ

東北学院大学工学部へ入学した新入生のみなさん、入学おめでとう。

まず。最初に抱いた良い志を継続させて、それぞれの目標に前進してください。

多賀城キャンパス



多賀城キャンパス
大学 宗教主任
野村 信

桜の満開の多賀城キャンパスで、整った施設を用いて大いに勉強し、友と語らい、青春を楽しんでください。

さて、私は、多賀城キャンパスの宗教活動を担当しています。よろしくお願

また新学年に進級した在校生も、この時期は、フレッシュな気分です。

毎週、火曜日に講義がありますので、この日、みなさん

各キャンパスのメッセージ

リスト教からいろいろな学んでみませんか。そのためにも、チャペルや宗教部の活動を利用してください。常に好奇心を抱いて、またあらゆるチャンスをつかまえて、卒業までに知性と人間性を最大限磨いて下さい。

と接する機会があると思います。午前の礼拝を担当し、また火曜日は、お昼に軽食を取りながら聖書を学ぶ会をしています。午後は、カウンセリング室にて待機しています。気軽に訪ねてください。



泉キャンパス

大学 宗教主任
永井 義之

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

である、人生とは何かとか、人間とは何者かとか、世界はどうなっているのか等々考え

大学生としての歩みがいよいよ始まりです。高校までの間、さまざまな制約があってもなしえなかったことをこれからはやるぞと意気込んでおられることと思います。是非、自分の頭で考え、自分らしいスタイルを確立していただきたいと思ひます。大学はそのような生き方をするのに適した環境です。受験体制の中ではあまり考えることなかったこと、たとえば古典的テーマ

でも足りない大問題が次々と思い浮かぶことでしょうか。大学での諸設備、教師や友人とのかかわりなどを大いに利用して自分と言う人間を確立する充実した大学生活を送られるように声援をしたいと思ひます。礼拝の時間も自分を振り返り、皆さんがいろいろな考えるヒントを得る場として積極的に活用してください。

הַתְּהִיָּה לְהוֹרֵי וְנִבְחֵי וְחֹשֶׁף עַל־פְּנֵי תְהוֹם וְרִחַת אֱלֹהִים מִן־
 הַמַּיִם: 3 וְיִאֱמָר אֱלֹהִים יְהִי אֱלֹהֵי הַיָּם וְהַיָּם יִבְרַח
 4 וְיִבְרַח הַיָּם כִּי־יִשָּׁב וְיִבְרַח אֱלֹהִים מִן הַיָּם וְיִבְרַח הַיָּם
 5 אֲלֵהֶם לְאֹרֶךְ יוֹם וְלַלַּיְלָה כִּי־יִשָּׁב וְיִבְרַח הַיָּם
 6 מִן הַיָּם לְקוֹם: 7 וְיִשָּׁב אֱלֹהִים אֶת־הַיָּם וְיִבְרַח מִן־
 8 מִסְתַּח לְקִדְמֵי יְבוֹן הַמַּיִם אֲשֶׁר מַעַל לְקִדְמֵי יְהוָה
 9 אֱלֹהִים לְקִדְמֵי שָׁמַיִם וְהַיָּם יִבְרַח וְהַיָּם יִבְרַח וְהַיָּם יִבְרַח
 10 וְיִאֱמָר אֱלֹהִים יְקוּם הַמַּיִם מִסְתַּח הַשָּׁמַיִם אֶל־מְקוֹמָם: 11
 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 12 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 13 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 14 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 15 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 16 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 17 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 18 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 19 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 20 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 21 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 22 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 23 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 24 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 25 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 26 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 27 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 28 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 29 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 30 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 31 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 32 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 33 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 34 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 35 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 36 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 37 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 38 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 39 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 40 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 41 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 42 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 43 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 44 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 45 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 46 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 47 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 48 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 49 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 50 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 51 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 52 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 53 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 54 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 55 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 56 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 57 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 58 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 59 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 60 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 61 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 62 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 63 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 64 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 65 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 66 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 67 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 68 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 69 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 70 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 71 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 72 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 73 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 74 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 75 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 76 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 77 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 78 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 79 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 80 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 81 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 82 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 83 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 84 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 85 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 86 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 87 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 88 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 89 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 90 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 91 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 92 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 93 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 94 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 95 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 96 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 97 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 98 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 99 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם
 100 וְיִבְרַח הַיָּם וְיִבְרַח אֱלֹהִים לְקִדְמֵי יְהוָה וְיִבְרַח הַיָּם

キリスト教 Q & A

1 Ἡ ἀρχὴ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος
 καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. 2 οὗτος ἦν ἐν
 3 πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ χωρὶς
 4 ἐν. ὁ γέγονεν. 4 ἐν αὐτῷ ζῶν
 5 φῶς τῶν ἀνθρώπων. 5 καὶ τὸ φῶς
 καὶ ἡ σκοτία αὐτὸ οὐ κατέλαβεν.
 6 Ἐγένετο ἄνθρωπος ἄπειστον
 αὐτῷ Ἰωάννης. 7 οὗτος ἦλθεν ἐκ
 τῆς ἡσυχίας περὶ τοῦ φωτός, ἵνα πάντες
 8 οὐκ ἦν ἐκεῖνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα
 9 φῶτος. 9 Ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινόν
 ἀνθρώπων, ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμον,
 καὶ ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο
 οὐκ ἔγνω. 11 εἰς τὰ ἴδια ἔλεβεν

Q 東北学院大学の ルーツは？

十六世紀の宗教改革によつて生まれたプロテスタント信仰を持つ多くの人々は、十七世紀にアメリカ新大陸に移住しました。その中のドイツ系移民たちは、ウィリアム・ペンが開放した土地ペンシルヴェニア州に集中的に定住しました。そこで、特に改革派の流れを汲む者たちが「ドイツ改革教会」（十八世紀）を設立したのです。彼らの信仰は、ウルジヌスとオレヴィアヌスの著した『ハイデルベルク信仰問答』（一五六二年）に表明されています。十九世紀に創設された小さな教派神学校は、やがて、ランカスターのフランクリン&マーシャル大学や神学校へ成長し、また、

Q キリスト教大学って何？

近代日本の教育の歴史を振り返って見ると、欧米列強に伍するため、国民教育の目標は富国強兵にありました。特に大学を設置することによって有能な官吏を養成することに第一の目標が置かれました。

Q キリスト教大学って何？

その同じ幹からカレッジビル（Usinus）大学が生まれたのです。かつて、東北学院大学の創立に加わった）W・E・ホーイやD・B・シュネーダーは、ランカスターで学んだドイツ改革派教会の宣教師たちでした。これらの学校と東北学院大学は、同じ伝統を共有する姉妹校として交流しております。
 （佐々木哲夫）

Q キリスト教大学って何？

明治三十三年、「訓令十二号」という文部省通達が出され、キリスト教学校に致命的打撃を与えました。これは、宗教教育、宗教儀式をすれば文部省認可の学校と認めないというものでした。従来、公認の「学校」では上級学校進学資格と徴兵猶予の特典が与えられていましたから、それらを放棄しても聖書の教育と礼拝を捧げる道をキリスト教学校は選びとったのです。
 戦後、新制大学がスタートするとキリスト教学校も制度を整え、キリスト教大学が公教育の一端を担うようになりました。これは特に戦後の日本国憲法を基礎に置き教育基本法において明示された「人格の完成を目指し、平和的な国家及社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成」という理念の実現にキリスト教大学こそが応えうるの確信によるものです。
 （永井 義之）

Q キリスト教学はなぜ必修なの？

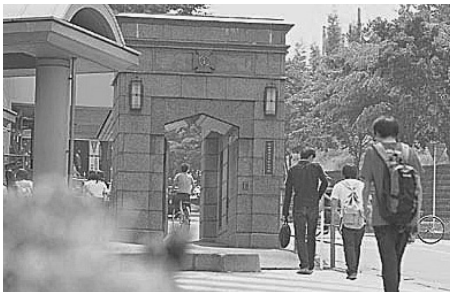
東北学院大学へ入学した皆さんが、毎日の大学礼拝に出席し、キリスト教学を学ぶことは、東北学院大学の学生であることの証しであり、またこれを前提条件として大学に入学してこられたのです。そこで、キリスト教学が必修なのは、本学の方針であるはずと説明できます。

しかし、二番目に、なぜキリスト教学が必修なのかは、もっと基本的な理由があります。そもそも日本の教育制度は、明治維新の後に、キリスト教の世界から産み出された西洋近代教育を学び、これを採用してきましたので、この教育制度の生みの親たるキリスト教について学ぶことは、教育の学問の根底をなす学びである

と説明できます。

私達の人生と社会の根本に神との関係によって理解され、産み出されてきた様々な制度や構造があることに気づいているでしょうか。例えば、法治国家としての規律、秩序、契約という概念や、さらに民主主義や資本主義、教育制度、医療・福祉制度、あらゆる領域がキリスト教世界から生み出されて発展してきたものであることを否定することができないのです。そこで、私たちは、広くキリスト教の教えとその世界観を学ぶことによって、私たち自身と現代社会を豊かに学ぶことができるのです。そういう点で、皆さんも、このような視点から礼拝を重んじ、キリスト教学を積極的に学んでいって欲しいと思います。

(野村 信)



泉キャンパス



多賀城キャンパス

Q 礼拝でマークシートを配るのは何のため？

東北学院大学の高等教育機関としての営みは、人間の知恵や力量だけでなく、神の愛とめぐみによって導かれていると認識されています。そのような自己認識は、大学設置の基本理念であり、また、東北学院創立一二〇年の歴史と伝統の中で保持されてきた建学の理念です。大学礼拝は、

そのような東北学院大学固有の価値観、換言するならば、東北学院の建学の精神を具体化する公の行事です。しかも、礼拝は、仙台神学校創立以来、毎日行われる営みの一つに位置づけられてきました。東北学院大学は、余った時間ではなく、価値を見いだした対象にふさわしい最良の時間をもって礼拝を執行しています。それ故、その時間に対

し、教育機関としての責任があります。また、東北学院大学の学生は、大学礼拝に参加するはずであると期待されています。即ち、大学礼拝に参加することは、東北学院大学の学生の特権であり、また、東北学院のアイデンティティそのものなのです。

東北学院大学は、大学礼拝に対し無関心ではありません。見いだした価値にふさわしく、私達の熱情や努力を捧げたいと願っています。それ故、今、どのような大学礼拝が行なわれているかをきちんと把握すること、例えば、マークシートをもって大学礼拝の現況を把握することは、自己評価の責任を果たす第一歩であると考えております。皆さんの大学礼拝への参加は、見過ごされるのではなく、確かに覚えられるものなのです。

(佐々木哲夫)

